

『摂南大学教育学研究』第18号発刊にあたって

『摂南大学教育学研究』編集委員会

委員長 吉田 佐治子

このたび、『摂南大学教育学研究』(Bulletin of Educational Research of Setsunan University)第18号が完成いたしましたので、発刊いたします。

本誌は、摂南大学教職支援センターの教員及び教職課程を履修した卒業生を中心に、教育の理論および実践的交流誌として発刊するもので、教職支援センターの研究事業として18年の歳月を刻むこととなります。

2021年も、2020年に引き続き、新型コロナウイルスが猛威を振るいました。そうした中で、少しずつ「新しい生活様式」に慣れてきたように思います。教職課程でいえば、2021年度の教育実習が、実習校のご協力のおかげでほぼ予定通り実施できました。この場を借りてお礼申し上げます。また、大学の授業も遠隔で行われることが多くなりましたが、遠隔授業ならではの方法がさまざま考えられています。

それでもやはり、学生のいないキャンパスはさみしいものでしたが、長く続いた第3回緊急事態宣言の期間が終了し、秋からは大学に活気が戻ってきました。あちらこちらで談笑する学生の姿は嬉しいものです。授業においても、直接学生とやりとりできることが楽しく感じられました。遠隔授業という方式を知った学生が「やはり対面授業の方がよい」と思えるような授業を展開していかなければならないと、改めて考えているところです。

本学の発展と共に教職課程の教育内容がますます充実していくための一助となるために、この『摂南大学教育学研究』が役立つことを願っています。

2022年1月31日